

書写書道教育における伝統文化の視点と英語表現の活用

——広島県熊野町低学年書道科を例に——

是永 早紀*・森 哲之**

Utilizing Traditional Culture and English Expressions to Teach Japanese Calligraphy:
Lessons Taught to the Lower Grades Calligraphy in Kumano Town, Hiroshima

Saki KORENAGA* and Tetsushi MORI**

はじめに

教育基本法第2条（教育の目標）第五項には、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する（中略）態度を養うこと」とあり、伝統文化を通して国や郷土を愛する児童生徒を育てることは学校教育において重要である。また、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（第1部第5章－5、平成28年12月）には、「グローバル化する中で世界と向き合うことが求められているわが国においては、自国や他国の言語や文化を理解し、日本人としての美徳や良さを生かしグローバルな視野で活躍するために必要な資質・能力の育成が求められている。（中略）加えて、古典や歴史、芸術の学習を通じて、日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し、わが国の伝統や文化を語り継承していきようにすること、様々な国や地域について学ぶことを通じて、文化や考え方の多様性を理解し、多様な人々と協働していくことができるようにすることなどが重要である。」とある。ま

た、文部科学省公示の学習指導要領（平成29年3月）の教育内容の主な改善事項には、「伝統や文化に関する教育の充実」とあり、一例として、古典などの我が国の言語文化（国語）、県内の主な文化財や年中行事の理解（社会）等が挙げられる。このように、教科等横断的な視点の中で、我が国や郷土の伝統や文化を継承・発展するための教育の充実が教育活動全体を通して図られている。伝統文化に関する理解を深めるために、各教科の中でも伝統文化を積極的に取り入れていくことが求められる。

学習指導要領において、国語科書写の学習は、文字を正しく丁寧に整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮することが示されている。そして、毛筆を使用する書写の学習により、児童一人ひとりの文字感覚を高め、我が国の伝統文化に対する理解を深めていくことが考えられる。

一方、平成30年度から小学校では、歌などを通して英語に親しむ外国語活動が3・4年に前倒しされ、5・6年は英語が正式教科となる。各自治体の中には既にこの改定に先駆けて英語教育を推進している小学校も見られる。

そこで、日本人にとって身近で、日常生活に

* 本学初等教育学科34期生

** 本学教授

根差す日本の伝統文化に着目する。伝統文化について異文化間の交流を図ることにより、英語力の向上へつなげたいと考える。書写書道、伝統文化に関する好例としては、広島県熊野町立小学校で実施されている「低学年書道科」を挙げることができる。熊野町で行われている、伝統文化、地域の産業である熊野筆の特色を生かし、その魅力やよさを国内外の人々に広く発信できるよう検討する。

本稿では、熊野の伝統文化などの視点から書写書道教育を捉えるとともに、英語表現の活用を試みる。なお、研究の一環として、教科内容と言語（英語）の両方を学ぶ教授法である CLIL（内容言語統合型学習）の視点を参考にする。学習者が英語を通じて科目内容に興味を持ち、実際に英語を使う学習内容についても触れる。

1. 熊野町の伝統文化と低学年書道科の特色

熊野町の公式ホームページによると、広島県安芸郡熊野町は古くから「筆の都」として栄え、毛筆、画筆、化粧筆など日本一の生産量を誇る筆の産地である。化粧筆は、G7 外相会合や伊勢志摩サミットの記念品として贈られたことにより、世界に誇る日本の伝統工芸品としても知られる。

熊野町立学校では、地域の特色である熊野筆を生かした学習活動を小・中・高等学校の教育活動の中で行っている。特に、注目したいのが「低学年書道科」である。熊野町は平成22年度より、小学校低学年（1・2年生）のカリキュラムに、独自に「書道科」を取り入れ、毛筆や書の伝統文化に親しませるとともに、児童の落ち着きや集中力を伸ばし、心の豊かさを育てている。書道によって忍耐力や集中力を養うとともに、表現力や理解力が向上するなどの効果が期

待されている。

学習指導要領では、毛筆を使用する書写は小学校3年生より取り組むことになっているが、熊野では小学校1・2年生で毛筆を使用した「書道科」を行っている。このことによって、国語科書写の基本となる正しい姿勢や筆記具の持ち方の定着を図ることもできている。

2. 書写書道教育と英語の学習

グローバル化社会の進展により、英語教育のみならず、全教科の学習内容や指導方法への関心が高まっている。英語学習については IB（国際バカロレア）や CLIL、CBI、EMI など様々な方法がある。

ここでは、CLIL（Continent and Language Integrated Learning）を参考にする。CLIL は、英語を使って特定の教科の内容の習得を目指す教育である。学習する内容とことばの両方を同時に促進しようとすることで、学習者の学ぶ意欲を引き出す効果があり、ヨーロッパを中心に広く採用されている。教科内容を題材に様々な言語活動を取り入れることで、英語の4技能（聞く・話す・読む・書く）を高めることができる。英語で何かを学ぶことで、自然に言語を使う機会を生み出すことができ、子どもたちの発信能力を高めている。また、英語を通じて科目内容について興味を持ち、自分自身で英語を使いながら学習を進めていくことで、英語と知識と思考を駆使し、他者と協働して新たな価値を創造する力を養うことができる。

CLIL では、母国語以外の言語で図工や家庭科、社会などの教科学習や時事問題、異文化理解などのトピックと英語の語学学習の両方を学ぶことができる。そこで、小学校において英語教育が必須となることを受け、教科学習における様々なトピックを英語で表現することを通し

て、自国の文化の一つである書道と英語の両方を学ぶことのできる活動が考えられる。これらの特性を生かし、書写書道文化を英語学習と結びつけ、英語表現を用いた教材化を検討する。

まず、書写書道に関する基本的な用語等については、英語で次のように示すことができる。

書／書写／書道
calligraphy
漢字
Chinese character, kanji
筆
brush
墨液
ink
固形墨
ink stick
硯
ink stone
文鎮
paperweight
紙
paper, rice paper
下敷き
felt mat
姿勢
posture
背中がびん
keep your back straight
足はぺったん
keep your feet flat on the floor
筆の持ち方
hold the brush straight up
筆の軸をまっすぐにする
straight the brush penholder
親指と人差し指で筆をつまむ
pick up the brush using your thumb and forefinger

中指の爪を軽く添える
rest the brush against your middle finger nail
空書き
line in the air
指書き
write on the paper using your finger
なぞり書き
trace the pattern
穂先を下ろす
lower your brush's tip to the paper
腹まで押さえる
maintain enough pressure to bend the middle of the bristles
トン・スー・トン（始筆、送筆、終筆）
contact, slide, stop
横画
slide right
縦画
slide down
とめ
stop
右払い
taper
左払い
stop and taper
縦画のはね
hook upward

例えば、CLILの活用方法としては、小学校高学年を対象とした書き初め、年賀状、団扇や扇子、色紙などに書きまとめる活動の応用が考えられる。グループで書道文化を英語で紹介し、ポスターにまとめたり、作ったポスターを基に、実際に毛筆で好きな漢字を書く体験などを行い、留学生などの外国の人々と交流したりする活動につなげることができる。

3. 熊野町低学年書道科について

平成28年11月21日に熊野第四小学校、11月29日に熊野第三小学校の現地見学を行った。低学年書道科は書道科担当教員と学級担任のチームティーチングで行われる。なお、授業に必要な用具・用材はすべて書道科担当教員が準備、片付けを行っている。2校での授業の流れは第1学年の同じ「上」の題材であったため、共通した一連の学習活動を列挙しておく。

① 挨拶

学級担任中心に授業の始めと終わりの挨拶を行う。始める前の声かけとして、深呼吸、手を温める、足ペタ（少し開いて踏ん張る）、手を挙げるときの練習、胸を張るなど行われた。授業開始後にはまず半紙を一枚折り、残りは机の中に入れさせる。つるつるの方を表にして下敷きの上に置き文鎮を右上に置くよう指示がある。

② 本時のめあてを知る

教師がめあてを板書し、本時の課題について共通理解を図る。

③ 字源を知る

文字を提示して書くだけでなく、絵や昔の文字（甲骨文等）を順に見せてその文字の成り立ちを示し、児童の興味関心を引き出す。

④ 正しい書き方の理解（図1）

授業のはじめに提示しためあてより、学習の中で画と画が「くつつく」とはどういうことか点画パズルを用いて考える。点画パズルは「上」の「ちょっとくつつく」「全部くつつく」などを表し、字形を捉えるのを助ける役割がある。

⑤ 空書き（図2）

手のひらを筆に見立てて体全体を使って空書きを行う。

⑥ 指書き（図3）

4つの升ができるように折った半紙にイメージしながら指書きをする。

⑦ 書き順の確認

空書き、指書きを通して行うことで書き順の確認になる。

⑧ 姿勢の確認

筆を持って書き始める前に、全員で正しい姿勢について合言葉（姿勢のあいう）を基に確認を行う。

（あ）あしはぺったんゆかのうえ

両足をつけて座ることでふんばることができ、文字を書くときの体のバランスを保つ。

（い）いすをつくえのあいだはゲー

ひとつ

身体を中心にお腹と机、背中と椅子の間にこぶし一個分の空間があるかどうか確かめる。体との適切な距離をとることで体のバランスを保ち、正しい姿勢を維持できる。

（う）うではつくえにつけないで

ひだりておさえてさあかこう

腕を机につけてしまうと体が前に傾き、目と半紙の距離が近くなる。そうならないために、左手で半紙をしっかりと押さえて体を支えることが大切である。また、紙を固定することで安定して書きやすくなる。

⑨ 持ち方の確認（図4）

筆をまっすぐ立て、親指、人差し指、中指の三本で持ち、薬指で支え、小指を後ろから添える2本掛けである。実際に教師が筆を持って児童に示し、児童同士で確認し合う。

⑩ 墨の付け方

墨をつける際には、筆の腹までたっぷりと墨をつけるようにする。つけすぎるとボタボタと垂れるため、垂れないよう適度に硯の中で落としてから書き始める。

⑪ 線書き（図5）

「命毛トン」、「斜めに腹までトン」などといった声かけとともに、筆の名称や始筆時のリズムを定着させていく。「横にスー3. 4. 5」と言ってリズムと共に送筆を促すことでスムーズな書き出しができる。

⑫ 範書（図6）

ポイントを示しながら教師が水書板に範書をし、「上」の書き方を知る。児童が使う半紙と同じように水書板を4つに区切っており、ポイントを確認しやすい。

⑬ 試し書き（図7・8）

課題の文字である「上」を教師の声掛けと同時に、一画ずつ丁寧に書く。書いた作品は後から確認できるように、新聞紙の上に順に並べて置く。

⑭ 自己批評（図9）

試し書きで書いた作品を、指ものさしで測ったり、直接書き込んだりして画の長さを比較する。また、教師の示した文字と自分の書いた作品を比べ、互いの作品を共有し合うことで、上手く書けているところ、もっとこうしたら上手く書けるところなどの改善点を伝え合う。

⑮ 清書（図10・11・12・13）

半紙の上を指で測って確かめ、試し書きよりもより良く書けるよう、イメージを膨らませてから書く。書けた作品には小筆で名前を入れる。

⑯ 鑑賞（図14・15）

友達の書いたものを見て、お互いを認め合う。

⑰ 振り返り（図16）

めあてが達成されている作品を学級全体で評価し、言語化することによって、頑張ったこと、自己批評を通して上手く書けるように

なったところを発表する。

⑱ 挨拶

学級担任が全体に対して頑張りを褒め、認める声かけを行い、授業を終える。

このように、複数の言語活動の機会を設けることは、自分の課題を明確化し、解決に向けて取り組めるだけでなく、友達から認められることで自己肯定感にもつながる。また、書くときと意見を発表するときで気持ちを切り替えることができ、集中力や持続力が身に付く。

4. 熊野町低学年書道科と英語表現の試み

先述の通り、伝統文化の好例である熊野町立小学校の「低学年書道科」を取り上げ、国内外に広く発信していけるよう、英語表現を結び付けた試みを行う。そこで、熊野町が平成25年より公開している、「熊野が大切にしているひととき—低学年書道科—」（<https://youtube/u2lGyGpGU-c>）の映像を基に、熊野の特色、毛筆の伝統文化に関する内容、書道科の授業場面、インタビュー等を取り上げ、英語表現を併記する。

映像の構成については、熊野筆と共に大切にされている低学年書道科の授業の様子、筆祭り、筆づくりの伝統工芸などを紹介している。

(1) 熊野の特色（要旨）

- ① 熊野町は全国のおよそ8割の筆の生産を誇る筆の産地である。熊野町で毎年行われている筆祭りは、1100年の歴史を持ち、広島県内でも大規模な祭りの1つである。祭りが祈念するのは書、化粧、芸術・工芸に欠かせない筆。高校生が書道パフォーマンスを見せたり、太鼓演奏を披露したりして盛り上がる。

<p>Kumano town is one of the most famous places for brushes. 80 percent of all brushes in Japan are made in Kumano.</p> <p>The Fude-matsuri, or the brush festival, is one of the biggest and oldest festivals in Hiroshima. It has a 1100-year history. The festival shows the importance of Japanese calligraphy, make up, and art brushes. People enjoy the calligraphy performance and Japanese drums performance by local high school students.</p>	<p>calligraphy from the first-grade. They also think about training composure, concentration, and keeping an open-mind.</p> <p>During class, turn with their whole bodies to look at their classmate who is speaking. The teacher teaches them how to focus and listen. Students get into the habit of listening with their eyes, ears and minds.</p>
<p>② 筆の里工房はあらゆる筆が展示されたミュージアム。筆の他にも様々な書画の展示や体験スペースが設けられている。熊野町で作られている筆は全て手作り。数十年の経験を持つ伝統工芸士が幾重もの専門工程を経て作り上げている。</p>	<p>(2) 授業場面Ⅰ（4:44～6:26）</p> <p>以下、T：教師、S1～4：児童、MS：学級全体、N：ナレーターを示す。</p>
<p>Fudenosato-museum displays many kinds of brushes. It also holds various exhibitions like Japanese calligraphy and arts. All the brushes made in Kumano are handmade. Traditional artists put in a lot of hard work to perfect their designs and crafts.</p>	<p>① T: 今日のめあてが書いてあるのでみんなで一緒に言います。いきますよ、せーの！</p> <p>TS: 「かくと かくが まじわる ところに きをつけて かける」</p> <p>T: 今までどんな字を書いたか覚えていますか。</p>
<p>③ 筆のほかに大切にしているもののひとつに低学年書道科がある。熊野町は1年生から書道を学ぶ機会を設け、落ち着き、集中力、心の豊かさを育みたいと考えた。授業では、聞くときに話し手に体を向けて瞳を見る。先生はお腹を向けると教え、児童は目と耳と心で聞く習慣が身に付いている。</p>	<p>T: This is today's goal, so let's say it together! 1, 2</p> <p>TS: 'Pay attention to where two straight lines intersect'.</p> <p>T: Do you remember the kanji that we learned last time?</p>
<p>In schools, students learn how to use different kinds of brushes, and one of them is the brush for first and second grade elementary school calligraphy classes.</p> <p>In Kumano, they can learn Japanese</p>	<p>② N: 交わるって何だろう。まず、これまで書いた字を思い出してみよう。</p> <p>N: First, let's review the kanji we have learned.</p> <p>③ S1: 「上」を書きました。どうですか。</p> <p>MS: 同じです。</p> <p>S2: 「川」を書きました。どうですか。</p> <p>MS: 同じです。</p> <p>T: 二つ、何ていう言葉を使ったか。</p>

<p>(「上」の字を見て)</p> <p>S3: 画と画が「くつつく」ところです。</p> <p>どうですか。</p> <p>T: すばらしい</p>
<p>S1: We learned 'UP', do you remember it?</p> <p>MS: Yes.</p> <p>S2: We learned 'RIVER', do you remember it?</p> <p>MS: Yes.</p> <p>T: What do you call these two points, where two lines connect without crossing.</p> <p>S3: That is called 'Kuttsuku'.</p> <p>T: Good job!</p>
④ N: では、線が重なるところは。
N: How about where one line is drawn on top of another?
⑤ T: 「交わる」といいます。今日はこういう風に重なる字を書きます。
T: That is called 'Majiwaru'
Today we will write kanji like this.
⑥ N: 絵が出てきました。
N: She shows a picture.
⑦ T: 土から芽が出ている形からできた漢字です。漢字になる前はこれです。なにかこう、出ています。(甲骨文字の「土」)
漢字になると「土」です。
T: This is a sprout coming up from the earth.
This character was written like this on bone.
And the kanji is 'Earth'.
⑧ N: これが今日書く漢字。交わるのめあてはこの字のどこに？
N: This is today's kanji.
Where is the Majiwaru in this kanji?

⑨ S4: 一画目と二画目が交わっています。
どうですか。
MS: 同じです。
S4: The first line and second line are crossing.
I think it is the Majiwaru, do you?
MS: Yes.
⑩ N: その通り。
N: That's right.

(3) 授業場面Ⅱ (7:27~11:32)

① N: 小さな匠たちも負けずに一生懸命。
N: These little artists keep working their hardest.
② S: 三画目の長いところが下に降りるところです。
S: The bottom line is a little crooked.
③ N: 一画目、二画目と言って伝えたいことを正確に表現する。
N: They say the first stroke and the second stroke and they try to get their expressions correct.
④ T: そうだね、三画目の向きを言ってくれました。素晴らしいですね。
書く前に線の練習をします。
T: That's right, she told us the direction of the third line.
Wonderful.
Before we write on the paper, let's practice the line.
⑤ N: 線書き。武道に例えるなら型の練習。
めあてに関わらず、姿勢や筆の抑え方を体で覚える。
N: When drawing lines, students should

<p>watch their posture as though practicing martial arts.</p> <p>Whatever they do, they must remember their posture and how to use the brush and their bodies.</p>	<p>through martial arts.</p> <p>They develop their power of sustained concentration.</p> <p>By cleaning their minds, they are able to write not with their wrists, but with their whole bodies.</p>
⑥ T: 右手を出しましょう。いきますよ。	⑫ T: 良い字を書くには良い姿勢からです。足はぺったん床の上。
T: Put your right hand out. Are you ready?	T: To write good Kanji, you need good posture. Keep your feet flat on the floor.
⑦ N: 空書きで筆脈を覚える。	⑬ N: 足をそろえ親指付け根に体重をかけて踏ん張り、背筋を伸ばします。
N: They must remember to connect each stroke with a line in the air.	N: Maintain the same pressure across your entire foot, from heel to toe and keep your back straight.
⑧ T: 一画目トン、スー、ピタ。二画目トン、右に上がってスー、ピタ。指を出して半紙の上トン、スー、ピタ。	⑭ T: 背中をピンと伸ばしたまま、いすと机のあいだグーひとつ。前と後ろの間にグーが入りますか。
T: First stroke, contact, slide, stop. Second stroke, contact, slide, stop. Put your finger on your paper, contact, slide, stop	T: Keep your back straight, so one fist can fit between your back and the chair and your stomach and the desk. Can you do it?
⑨ N: 指書きで半紙に筆を下ろす場所を捉える。	⑮ N: いすと机のあいだにこぶし一個分ほどの空間を開け、体が動く空間を作ります。身体を使って字を書くためです。
N: Write on the paper with your finger and decide the location to start your brush.	N: With a one fist space between their back and the chair, they can write kanji using their entire bodies.
⑩ T: くるっと回して二画目トン、スー、ピタ。	⑯ T: 身体が動きますか。前と後ろに。腕は机に付けないで、左手をおさえてください。
T: Imagine your brush turning in the air. Now, second stroke, contact, slide, stop.	T: Are you free to move to the front and back? You cannot put on your writing arm on the
⑪ N: みんな集中。書道の基本は書く時の姿勢。それは技と心を磨く武道とも通じます。途切れない集中が生む力。心を済ませ手首でなく体で書く。	
N: Everyone concentrates. For Japanese calligraphy, the right posture is essential. They sharpen their mind and skills	

	desk, and hold down the paper with your left hand.
⑰	N: 左手で半紙を押さえながら体を支えます。筆を持つ右手は肘を机に付けません。体を自由に動かすためです。
	N: They keep their left hands on the paper to support their bodies. Their right elbow should not touch the desk. Their bodies are free to move.
⑱	T: 左手がないと体がガタンとなって
	T: Your left hand keeps you from falling over.
⑲	N: そして筆の持ち方。持つたびに何度も練習します。
	N: Next is how to hold the brush. They practice many times.
⑳	T: 持ち方がきれいじゃないときれいな線は書けません。後ろからは爪がつくようにして。 いいですね。一画目から書きます。
	T: Without a beautiful grip on the brush, you cannot write beautiful lines. Your fingernail should rest on the back of the brush. Good. Let's start our first stroke.
㉑	N: 穂先を下ろします。
	N: Lower your brush's tip to the paper.
㉒	T: 斜めに腹まで押さええます。
	T: Maintain enough pressure to bend the middle of the bristles.
㉓	N: 集中
	N: They concentrate.
㉔	T: 腹まで、半分までぐっと押さえ、横

	にスー、長さを見てピタ。くるっと回して真ん中にトンぐっと腹まで押さええます。長さを見ながら下にスーピタ。三画目軽くトン。
	T: Are the bristles bending to the halfway point. Slide, check your length, stop. Turn your brush in the air and push to bend the bristles. Now, the third stroke.
㉕	N: 集中持続。
	N: They keep concentrating
㉖	T: 3・4・5 ピタ。穂先をきれいにして筆を置きましょう。1・2・3。 おおすごい。すばらしいね。
	T: Three, four, five, and stop. Strengthen the bristles in the ink stone, one two, three. Great. You did a good job.
㉗	N: この後、めあてを振り返ってどこを直したいか発表をするのです。
	N: After that, they review the day's goal and decide how to improve their strokes.
㉘	T: 書き終わって早くも左と右と上と下を指で測っている人がいます。
	T: After they finish writing, they check the length and balance of their strokes.

(4) 校長・教育長のインタビュー
(12:27~14:37) (要旨)

- ① 熊野第二小学校校長（当時）
学級の中にはとても落ち着きのない子もいて、大丈夫かなと思っていたが、書道科

<p>の学習に入ると落ち着いて静かに先生の方を見て、しっかりと字を書き、お話を聞いている。</p>
<p>Before implementing calligraphy the lower grades of elementary school, some students did not have proper composure in class and I was afraid to do it. But, in the calligraphy class, they can remain composed and quiet, watch their teacher carefully and write well.</p> <p>They can also listen carefully to their teacher.</p>
<p>② 熊野第一小学校校長（当時）</p> <p>集中力が概ね一時間よく続く。習字（書道）の力を持続力からも感じる。</p>
<p>They can keep their concentration for one hour. It is a power of calligraphy.</p>
<p>③ 熊野第三小学校校長（当時）</p> <p>最初と三回目に書いたものとを比べていくと、自分で上達が分かり、みんなからいい面をしっかりと認めてもらうことによって、自分に自信がつく。</p>
<p>They can compare their first and third attempt. And they can earn the approval of others. So, they can get confidence.</p>
<p>④ 熊野第四小学校校長（当時）</p> <p>背中を伸ばすなどの書道科での姿勢が、すべての授業に生かされている。集中力、話を聞く姿勢などが変わってきている。</p>
<p>The calligraphy class influence all the other classes concentrate and use good manners when someone is talking. For example, they keep their back straight.</p>
<p>⑤ 熊野町 林保教育長</p> <p>書道を通して姿勢を正しくする。心を落</p>

<p>ち着かせて集中力を高める。そして学習規律を学ばせたい。文化と伝統を代表する書道教育を通して子どもたちの豊かな心が創造できたらなと思っている。</p>
<p>They keep the right posture through calligraphy. It increases the composure of their minds and raises their concentration levels. And we hope to teach them about study rules. Through the cultural and traditional education of calligraphy, we hope our students will learn to keep an open their mind to traditional arts and manners.</p>

熊野町低学年書道科では、児童が書道に親しみを持てるようにするために、地域の伝統ある熊野筆を使用している。このような地域に根差した伝統文化に触れる低学年書道科の果たす役割は大きい。また、書道科授業では、机上に手本を置かない。その代わりに導入において黒板で丁寧に字形の詳細を捉えさせる工夫がある。そうすることで、児童の集中力は非常に高まる。小学校1年生でも、心を落ち着かせて毛筆書写に取り組むことができています。このことは、3年生からの国語科書写の学習においても応用できる。また、自分の書いた文字に対して振り返り、良いところや課題を見つけて交流を行うことで、文字を書くということを大切にする気持ちが芽生えるであろう。また、英語を学ぶ目的として、英語を使って海外の人々に意思伝達できるようになること、すなわちコミュニケーション能力の育成がある。日本人にとって身近で、日常生活に根差す日本の伝統文化に注目し、伝統文化について異文化間でコミュニケーションを図ることで、英語力の向上にもつなげることができる。広島県熊野町立の「低学年書道科」

は、伝統文化、地域の産業である熊野筆の特色を存分に生かしている。このように、地域に根差した日本の特色ある伝統文化の英語表現の活用を試みることによって、国内外の人々に書写書道の伝統文化の一端を伝えることができよう。

おわりに

熊野町低学年書道科を題材に翻訳し、英語表現の活用を試みた。日本の伝統文化や書道を英語で表現することで、伝統文化には、日本に生まれ育ち、生活する中で理解している特有の表現があることが垣間見えた。このような特有の表現を異文化の中で生活する外国の人向けに英語表現化するには苦慮するところがあった。書道の制作者としての立場から、動作一つひとつの細かい言い回しに留意した。異文化間の交流にとって大事なものは、その難しいところを伝えることであろう。日本の伝統文化である書道を英語で伝えるために、その文化や背景も含め、どのように伝えるかということが重要であり、そこに伝える意義を見出せる。

低学年書道科では漢字を書く際に、その文字が成立した過程も含めて児童に働きかけることにより興味関心を持たせて学習に取り組んでいる。書を学ぶことに止まらず、多くの伝統文化の要素を多く含んでいる低学年書道科は教材としての価値が認められ、広く活用していくことが可能である。

翻って、公開されている熊野の貴重な映像は、小学校中学年以降の国語科書写の授業展開にも活用できる指導法であり、それを基にした英語表現は外国語活動の教材として取り扱うことなども考えられる。熊野の低学年書道科は、書の基本となる姿勢や持ち方をはじめ、書に初めて

触れる小学校1・2年生にも分かりやすい表現が繰り返されているため、技術指導としても児童に伝えやすく、高度であるが分かりやすい。加えて、高学年の書写学習の振り返りや英語科での活用にも応用できそうである。このように、英語表現の題材として身近な地域の特色ある伝統文化に触れ、英語表現に取り組むことは、海外の人々へ書道の伝統文化を伝える一つの手段になることも考えられる。

謝辞

熊野町低学年書道科の実地見学については、熊野町林保教育長、熊野第四小学校 吉田浩一校長、熊野第三小学校 平岡弘資校長をはじめ、関係の先生にご配慮をいただいた。また、翻訳については、本学のCraig Anthony Nevitt 講師をはじめ、関係の先生にご協力をいただき、合わせて感謝申し上げる。

【引用・参考文献・URL】

- 『明解 書写教育』全国大学書写書道教育学会 萱原 書房 2016年
- 『小学校書写 指導のアイデア&授業モデル—生きて働く「書写力」を育てる—』青山浩之 明治図書出版 2016年
- 『「書く力」を育てる小学校国語 書写授業プラン』青山浩之 愛知県西尾市立津平小学校 明治図書出版 2012年
- 『「書くこと」の学びを支える小学校国語科書写の展開』松本仁志 三省堂 2009年
- 『書道授業の実践的研究』谷口邦彦 三省堂 2015年
- 『CLIL 新しい発想の授業』笹島 茂 三修社 2011年
- 熊野町 HP (<http://www.town.kumano.hiroshima.jp/www/contents/1369266026395/index.html>) 2017.12.20. 閲覧
- 「熊野が大切にしているひととき—低学年書道科—」(<https://youtube/u2lGyGpGU-c>) 2017.12.20. 閲覧
- British Council (<https://www.britishcouncil.jp/programmes/english-education/japan/report/new-english-study-method>) 2017.12.20. 閲覧
- CLIL in Japan for Primary Education (<http://primary.cliljapan.org/what-is-clil/>) 2017.12.20. 閲覧



図1 点画パズルで字形を捉える児童



図5 「線書き」の練習に取り組む児童



図2 「空書き」をする児童

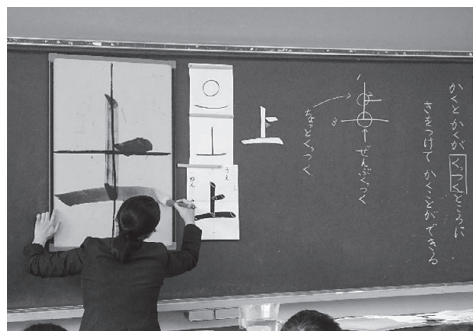


図6 低学年書道科担当教員による範書



図3 半紙の上で「指書き」をする児童



図7 声掛けにより一斉に一画ごと書く児童



図4 毛筆の持ち方を確認する児童



図8 終筆の毛筆の取扱いまで留意して書く児童



図9 作品が順に確認できるよう新聞の上に置く



図13 書いた作品を基に振り返りをする



図10 画の長さと配置を確認する児童



図14 挙手をして振り返りを発表する児童



図11 自分のペースで清書する児童



図15 点画の長さを指で測り発表する児童



図12 清書に名前を書き入れる児童



図16 作品についての発表と相互鑑賞

《展覧会報告》

書のかたち展Ⅱ（森 哲之）

2017.8.11～8.16 久留米シティプラザ（福岡県） <http://kurumecityplaza.jp>

後援：久留米市 久留米市教育委員会 西日本新聞社 久留米連合文化会 久留米文化推進協議会

『書のかたち-書の協奏- 第二集』 FORMS IN CALLIGRAPHY: A CONCERTO OF CALLIGRAPHY vol. 2（作品集）



是永早紀書作展 一道- 2018.2.19~2.25 アクロス福岡

卒業制作展 併催：是永早紀書作展 2018.1.16~2.13

広島文教女子大学 1号館 美術等ギャラリー・2号館1階フロア

初等教育学科 児童教育コース 書写書道専修34期生

